

## 上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)の説明・同意書

### 1. 検査目的

食道・胃・十二指腸の一部の病気(炎症・潰瘍・癌・ポリープなど)の診断と治療を目的に行われる検査です。

### 2. 検査方法

胃の泡を消す薬を飲み、のどをゼリー状の麻酔薬で麻酔します。(経鼻の場合、鼻腔にも、麻酔を行います。)その後、内視鏡を口または鼻腔から挿入し、上部消化管の観察を行います。検査時間は約10-30分です。検査中に必要があれば粘膜の一部を採取(生検)、組織検査を行ったり、病変部位に色素を散布し、診断の助けとすることがあります。

組織検査の結果により、追加で検査を行うことがあります。その場合は、ご請求は後日となります。

### 3. 抗血栓薬(血液をサラサラにする薬)を内服されておられる患者様

内視鏡の操作や生検などの処置により出血する可能性が高くなります。そのため薬の内容を確認する必要があります。飲まれている薬によっては事前に血液検査を行い、その結果、組織検査はしない観察のみの検査になる場合があります。

### 4. 経鼻上部消化管内視鏡検査を施行する場合

細径の内視鏡を使用することにより、鼻の穴から挿入し検査することも可能です。

#### 利点

a のどの反射(咽頭反射:吐きそうになること)が格段に少なく通常の口からの内視鏡よりも全体的には苦痛が少なくなります。検査中での会話が可能になります。

#### 欠点

a 軽度の鼻出血及び鼻痛が起こることがあります。

b 鼻腔が狭い方や鼻に病気のある方、出血傾向(血が出やすいまたは血が止まりにくい)のある方には検査をすることが難しくなります。

c 従来の内視鏡よりも、見える範囲が小さく検査時間がやや長くなる可能性があります。また診断が難しくなり、再検査が必要となる場合があります。止血処置や異物摘出などはできません。

鼻腔が狭いなどの理由でどうしても挿入が困難な場合や、検査施行医の判断で検査困難と判断した時には従来の口からの検査に変更させていただきます。

以上の点を十分ご理解いただいたうえで、経鼻上部消化管内視鏡検査を希望される方はお申し出下さい。

### 5. 偶発症について

精密な検査ほど偶発症の頻度が増加します。この検査では、のどの麻酔薬によるショック、鎮静剤による呼吸抑制、内視鏡操作によって起きる出血(経鼻の場合、鼻出血を含む)や内視鏡の通過する各部位(鼻腔 咽頭 食道 胃 十二指腸)の損傷・穿孔などが主な偶発症ですが、その他に治療中の病気(脳梗塞・心臓疾患等)が悪化することがあります。

日本消化器内視鏡学会が調査した全国集計(2000年)によるとその頻度は0.007%、死亡率は0.00045%です。万一、偶発症が発生したときには、すぐ当院へご連絡ください。外科処置を含め最善の処置を致します。

検査に対する説明に同意されましたら下記の同意書にご署名ください。

## 上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)の同意書

年 月 日

浅香山病院 総院長殿

説明医師

\_\_\_\_\_

私は、別紙の如く説明を受け、内視鏡検査の目的・方法・偶発症などを理解し、検査を必要であると判断しましたので、上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)を受けることに同意します。また、検査中に緊急の処置を行う必要が生じた場合は適宜処置されることも同意します。

年 月 日

患者氏名

\_\_\_\_\_

親族代表者

※本人のサインが難しい場合

(患者との続柄)

\_\_\_\_\_